

(様式例)

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年においては、区平均を上回る結果であった。
- ・第3学年においては、昨年度の達成率を上回る結果であった。

(2) 課題

- ・家庭学習の定着
- ・基礎的な問題や知識・理解を必要とする問題の定着率が全国平均と比べて下回る結果であった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値と比較し、2.3ポイント下回っている結果であった。		
第2学年	目標値と比較し、4ポイント下回っている結果であった。	目標値と比較し、1ポイント上回っている結果であった。(第1学年時)	
第3学年	目標値と比較し、4.6ポイント下回っている結果であった。	目標値と比較し、0.9ポイント下回っている結果であった。(第2学年時)	目標値と比較して、2ポイント下回っている結果であった。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値・区平均・全国平均を下回っている結果であった。	目標値を上回っているが、区平均・全国平均を下回っている結果であった。	目標値・区平均・全国平均を下回っている結果であった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均を上回っているが、目標値・全国平均を下回っている結果であった。	区平均・全国平均を上回っているが、目標値を下回っている結果であった。	区平均・全国平均を上回っているが、目標値を下回っている結果であった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均を上回っているが、目標値・全国平均を下回っている結果であった。	区平均・全国平均を上回っているが、目標値を下回っている結果であった。	目標値・区平均・全国平均を下回っている結果であった。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的事項について小 単元ごとに正確に理解させ小 テストを実施する。 ワークを用いた、作図、計算練 習を行う。	実験・観察の方法や考察につい て考える場面等において四人組 活動を活用するとともに、聞 きあう関係を構築する。	教科書の「学びを活かして考 えよう」を用いて、身近な生 活の中でどのように活用さ れているかを意識させる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的事項について小 単元ごとに正確に理解させ小 テストを実施する。 ワークを用いた、作図、計算練 習を行う。	実験・観察の実施、結果の処理、 考察の場面等において四人組 活動を活用するとともに、I C Tを用いた言語活動を充実さ せる。	教科書の「Before&After」や I C Tや協働学習を有効に取り 入れ、主体的に学習に取り組 む態度を育む。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な内容を定着させるた めに、小単元ごとに小テストを 実施する。 ワークを用いた、作図、計算練 習を行う。	実験・観察の実施、結果の処理、 考察の場面等において四人組 活動を活用するとともに、I C Tを用いた言語活動を活発に 行わせる。	単元・章の終わりや学期の終 わりに自己の学習の成果を 振り返り、調節することで主 体的に学習に取り組む態度 を育む。